

---

# 東方超雷光

雷道一茶

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

東方超雷光

### 【Nコード】

N7245Y

### 【作者名】

雷道一茶

### 【あらすじ】

ある日自分の頭上に雷が落ちてきて死んでしまった空守 来は白い空間にいた。いきなり頭に声が響くところは神がつくり出した空間らしい。なんか神が間違っただの頭上に雷を落としてしまった俺は死んでしまったらしい。なんでも願いを五つ叶えて並行世界の地球に転生させてくれるとか。最強・チート・転生もの注意!!!

## プロローグ

……うう……ここ……ここは？

俺は、目が覚めると何も無い白い空間にいた。

周りを見渡してみるが、やはり真っ白でなにもない。

俺は、何故こんなところにいるのか思い出してみようとするが何も思い出せない。

だが、名前などは覚えている。俺の名前は空守そらかみ 来らいという。普通の高校生だ。

家族は、みんな事故で他界してしまっただけからはアルバイトをしながら一人で暮らしている。

俺は、自分についての情報をまとめていると頭の中にこえが響いた。

『人間よ』

だ、誰だ?!

俺は、周りを見渡すが誰もいない。

『私か？私は君たちで言う神という存在だ』

神だと？

『ああ、そつだ人間よ』

……証拠でもあるのか？

『証拠か……』

神がそつ言つと

『そつだな、お前の両親はお前が中学生のころに交通事故で死んだんじゃないか？』

！???な、なんでそのことを!!!???

『私が神だから……じゃ駄目かな？』

………わかった、信じるよ。

『そつか、ありがとう』

礼はいいよ、それよりもここは何処なんだ？それとなんで俺はこんなところにいるんだ？

『そうだな、まずはここがどこかを答えるよ。ここは私が作り出した空間だよ。そしてなんで君がこんなところにいるかと言うとね………すまない。私が君の頭上に間違えて雷を落としてしまったんだ。』

かみ……な……り……？

このとき俺は、全てを思い出した。

そうだ、あのとき俺は、

………回想………

これで全部か？

そうだ、あのとき俺は買い物の帰りだった。

今日料理するのに必要な食材を買ってまっすぐ家に帰っていた。

そのときだ、青空が暗く染まったのは。

ゴロゴロ……！？

このとき俺は「雷雲か……」雨が降る前に急いで帰らなければな  
ぐらいにしか思っていなかった。まさか自分に雷が当たるなんて……  
な。

ゴロゴロ！バリバリ！！

この音が聞こえたと同時に俺は気を失ったんだ。

……  
……回想終了……

思い出したよ、全部。

『そうか、思い出したか。本当にすまなかった。』

いいさ、どうせ生きてたって良いことなんて一つも無かったんだ。

それで俺は天国か地獄のどちらかに行くのか？  
俺が、そう神に聞くと神は

『いや、行かない』

神がそうやってきた。俺が、なぜだ？と聞くと神は

『君の場合は私が殺してしまったという例外で転生させることにな  
っている』

転生？あの二次創作とかによくある？

『ああ、そうだ。それに転生するに置いて五つの願いを叶えてあげ  
よう』

叶えてやると言われてもな、まずどんな世界に転生するのかわから  
ないと決めようがないんだけど。

『君は地球の並行世界に転生する。細かく言えば東方project  
tという世界だ』

東方project？

俺はなんだそれ？と思って神に聞いてみると同人ゲームの世界らしい。

そのほかにも小説や動画も作られているらしいってなんでそんなに詳しいんだよ？

俺がそう言つと神が『……………秘密だ』と言って教えてくれない。

別に秘密にする必要はないと思うけど……………俺がそう思っている  
と神が急かすように言ってきた。

『それで、願いはなんだ？早く言ってみろ』

……………どうゆう世界かはわかったけど、その世界にはどんな能力  
を持ったやつがいるんだ？

『そうだな、有名なので言えば境界を操る程度の能力とか、主に空  
を飛ぶ程度の能力があるな』

境界を操る？よくわからん能力が出てきたな。

それに、「主に」空を飛ぶというのはどうゆう意味だ？

なんで、程度なんてものがつくんだ？別につけなくてもいいと思う  
が。

俺がそう考えていると神がいきなり俺の疑問についての答えを言っ  
てきた。

『仕方ない、君の疑問に答えてあげよう』



えっ？俺口に出してたっけ？  
そう俺が言ったがスルーされた。

『まず境界を操る程度の能力についてだが、この能力はだな物理的な境界つまり空間とかのことを指すな。それだけじゃなく夢や現実・物語の中と外といった概念的境界も操る事が出来るチート能力だ。次は主に空を飛ぶ程度の能力について教えてやろう。これは重力から浮いて無重力になって空を飛ぶほかに、精神的なものや物質的なもの等ありとあらゆるものから浮くことができ、どんな攻撃もすりぬけてしまおう言わば無敵能力さ。最後になぜ程度と付くのかだが、  
.....分からん』

.....ハ？

結構期待させといてわからないって、神だろ？  
俺がそう言つと神は焦ったように

『し、仕方がないだろう！私にだってわからないことの一つや二つあるわ！？』

そーゆーものかー（棒

『なんだ！？その棒読みは！？』

ごめんごめん、それで能力だっけ？

『あ、ああ、そ、そうだ（切り替えが早いな。いや、それは私もか）』

能力があゝなんかあるかな、………待てよ、別に能力じゃなくてもいいんじゃないか？俺はさっそく神に聞いてみた。

なあ、別に能力じゃなくてもいいんだよな？

『ああ構わないぞ』

それじゃあ、ずっと幸福でいられるようにしてくれ。

『わかった。だがそれは能力の部類に入るぞ？』

えっ？そうなのか？俺がそう聞くと神は

『ああ、東方 project の世界には無いが新しく能力を作れば「永遠に幸福である程度の能力」なんかがいいんじゃないか？』

なるほど、そんなかんじなのか。なら「ありとあらゆることの答えを出す程度の能力」とかは？

『つまり、答えを出す者だな』  
アンサーターカー

なんで知っているんだ!?

俺は心の中でそう叫んだ

『わかったぞ、後三つだ』

まだなにかあるか?.....そう言えばこの世界ってかなり危険なはずだよな?身を守る能力が欲しい所だよな、でも何にも思い付かないし、神のお任せでいいかと思ひ神に言った

自分の身を守る能力なら何でもいいよ

『つまり、私に決める.....と?』

コクつと俺は頷いたすると神はわかったと言って

『私に任せたことを後悔するくらい最強の能力を授けてやるう』

.....何だろ?神に任せたのは失敗だったか?  
俺がそう考えていると神が確認するように言ってきた

『君の能力について確認するぞ?「永遠に幸福である程度の能力」に「ありとあらゆること」の答えを出す程度の能力」でいいかな?そ

れと、三つは私が決めるということで』

ああ、それでいいよ

俺がそう言つと神は最後にすまなかつたと言つと目の前に金色の扉が現れた

『この扉を通れば自動的に転生される』

そうか、と俺が答えると扉へ向かって進んだ。すると神が達者出なと言ってきたので俺は

おう、とだけ言つて扉を通つた

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7245y/>

---

東方超雷光

2011年11月21日19時32分発行